

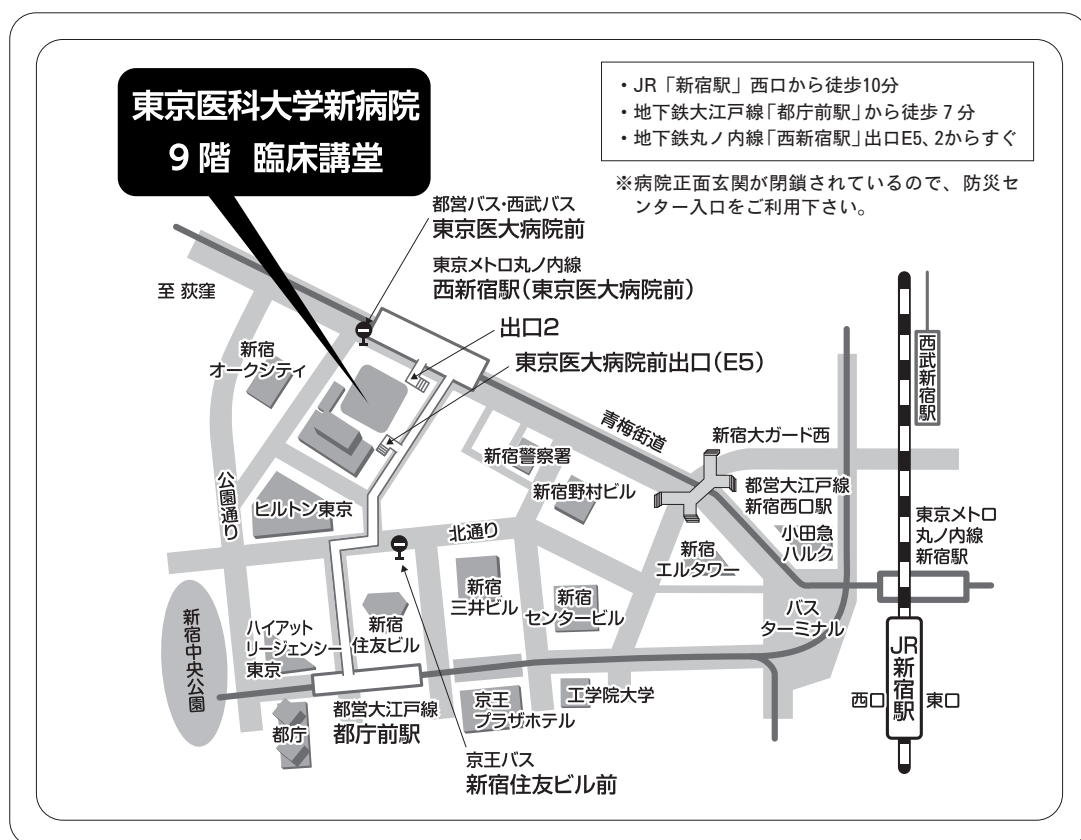
第 659 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プログラム

日 時 2019年12月14日(土) 午後 2 時 00 分

場 所 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂



次回以降開催予定日

2020年1月11日(土) 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂

2020年2月8日(土) 飯田橋 レインボービル 7 階

2020年3月14日(土) 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂

世話人

プログラム係

熊田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111

(FAX) 03(3344)0643

会場係

熊田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111

(FAX) 03(3344)0643

事務局

03(5388)7007

e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 659 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 岡橋 彩 (日本大学小児科)

1) 四世代にわたりフォローされている家族性肥大型心筋症の 1 家系

○西端みどり¹⁾、稲垣 夏子²⁾、川崎 健太¹⁾、羽生 直史¹⁾、渡邊 由祐¹⁾、奈良昇乃助¹⁾、
菅波 佑介¹⁾、河島 尚志¹⁾ (東京医科大学小児科)¹⁾、(同 循環器内科)²⁾

肥大型心筋症は循環器領域における単一遺伝子疾患として高頻度で、多くの遺伝子変異が報告されているが、本邦では遺伝子解析はまだ限られた施設においての研究段階の要素が強い。我々は発端者の遺伝学的検査を行ったことで四世代にわたり肥大型心筋症をフォローアップし、予後を推定した対処を行っている 1 歳女児の症例を経験したので報告する。

2) 早期の心房中隔欠損閉鎖術によりスムーズに在宅医療に移行できた慢性肺疾患を有する超低出生体重児

○鈴木 靖美、馬場 徹人、長田 朝美、玉岡 哲、金 隆根、有光 威志、妹尾 祥平、
住友 直文、小柳 喬幸、古道 一樹、飛弾麻里子、山岸 敬幸、高橋 孝雄
(慶應義塾大学小児科)

在胎 26 週 6 日、598g で出生。慢性肺疾患 (CLD) に心房中隔欠損 (ASD) を合併し、修正 40 週以降も高流量酸素から離脱困難だった。心カテーテル検査により高肺血流性肺高血圧が確認され、修正 54 週に ASD 閉鎖術を実施したところ、修正 57 週に在宅医療に移行できた。CLD 肺に対する早期血流コントロールが奏功したと考えられる。

3) 心不全症状を呈した先天性左大腿動静脈瘻の 1 例

○松井 亮介¹⁾、深澤 隆治¹⁾、築野 香苗¹⁾、渡邊 誠¹⁾、伊藤 保彦¹⁾、佐々木 孝²⁾、
鈴木 憲治²⁾、熊坂 栄³⁾
(日本医科大学小児科)¹⁾、(同 心臓血管外科)²⁾、(葛飾赤十字産院小児科)³⁾

日齢 18、女児。前医でうっ血性心不全と診断され当院紹介入院となった。精査で原因を特定できず、利尿剤にて症状消退するため外来経過観察とした。左大腿の腫脹を主訴に再受診されたとき同部に Thrill の触知、連続性雑音の聴取やカテーテル検査の結果にて、先天性左大腿動静脈瘻の診断に至った。動静脈瘻閉鎖術を施行しその後の経過は良好である。

第 2 グループ 14:30—15:05

座長 多賀谷 貴史 (国立成育医療研究センター救急診療科)

4) 日本海裂頭条虫症の駆虫に成功した 4 歳児の 1 例

○金田 朋也¹⁾、長澤 正之¹⁾、大柴 晃洋¹⁾、鈴木奈都子¹⁾、今井 雅子¹⁾、恩田 恵子¹⁾、
岡田 麻理¹⁾、横山はるな¹⁾、中谷 久恵¹⁾、金井 保澄¹⁾、秋山千枝子²⁾
(武蔵野赤十字病院小児科)¹⁾、(あきやま子どもクリニック)²⁾

4 歳男児。排便後に肛門から 10cm 程度の黄白色の紐状の物体が出てきた。引き抜いたところ途中で切断され、肛門側の断片は肛門内に自然還納された。近医で裂頭条虫症の診断となり、当院に紹介となった。入院にてプラジカンテルの経口投与で駆虫を行い、便中に含まれる頭節を確認した。1 か月経過後にも片節排泄の再開はなく駆虫の成功と判断した。

5) 外科疾患との鑑別を要したパレコウイルス感染症の乳児例

○戸田 方紀、三森 愛美、細井 賢二、稲毛 英介、箕輪 圭、神保 圭佑、遠藤 周、
安部 信平、春名 英典、久田 研、清水 俊明 (順天堂大学小児科)

生後2か月の女児。前日からの発熱を主訴に当院救急外来を受診した。来院時、活気は不良で心拍数200回/分および腹部膨満を認めた。菌血症や細菌性髄膜炎などを疑い血液検査が施行されたが炎症反応の上昇は認められなかった。精査のため小児外科入院となったが翌日、体幹・四肢に発疹が出現し、PCR法にてパレコウイルスが検出された。

6) 膝関節腫脹を主訴に来院し反応性関節炎と診断された1例

○花井 教史¹⁾、山下 匠¹⁾、田村 豪良¹⁾、吉橋 知邦¹⁾、玉木 久光¹⁾、大森 多恵¹⁾、
三澤 正弘¹⁾、山崎 晋²⁾

(東京都立墨東病院小児科)¹⁾、(東京医科歯科大学小児科)²⁾

10歳女児。先行する消化器症状があり、その後の発熱、左膝関節腫脹を主訴に来院し、反応性関節炎の診断となった。HLA-B27保有率が低い本邦で、腸炎感染後の反応性関節炎は稀であるが、関節痛の鑑別診断に反応性関節炎も挙がり、詳細な問診、診察が必要であると考えられた。本症例の経過、反応性関節炎の概要を交えて報告する。

指定発言 森 雅亮 (東京医科歯科大学小児科)

休 憩 15:05—15:15

感染症だより 15:15—15:35 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (国立がん研究センター中央病院感染症部)

森野 紗衣子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 (小児科領域) 15:35—16:35 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 平田 陽一郎 (北里大学小児科)

小児循環器のファーストタッチから専門診療へ

山岸 敬幸 (慶応義塾大学小児科)

小児科医は「子どもの総合診療医」である。すべての子どもたちの最初の窓口であり、必要な際には専門診療へ繋ぐ使命をもつ。主にファーストタッチを担う先生方から専門診療を担う先生方まで、幅広い小児科医が参加する東京都地方会において、「ファーストタッチから専門診療へ」の円滑な連携のために、それぞれの理解を深めることを本講演のテーマとした。小児循環器領域の主要症候・疾患をいくつか取り上げ、循環器疾患を特に疑う所見や病状、専門医に連携する適切なタイミングやポイント、そして最新の専門診療について勉強する。

休 憩 16:35—16:40

第3グループ 16:40—17:05

座長 菅波 佑介 (東京医科大学小児科)

7) G band法とFISH法を組み合わせる21q22中間部欠失を疑った1例

○矢田部玲子¹⁾、宮奈 香¹⁾、竹田 知洋²⁾、大石 芳久¹⁾、土屋 恵司¹⁾

(日本赤十字社医療センター小児科)¹⁾、(同 新生児科)²⁾

在胎33週5日1,205gで出生した女児。多発奇形を認め、G band法で21q22.1から末端の欠失が疑われた。FISH法では21q22.13-22.2領域およびサブテロメア領域にシグナルを認め、21q22中間部欠失が疑われた。詳細な欠失領域の同定にはアレイCGH法が必要であるが、プローベの位置によってはFISH法を用いて欠失部位を絞り込める可能性が示唆された。

指定発言 福原 康之 (国立成育医療研究センター遺伝診療科)

8) 先天性筋強直性ジストロフィーの診断に至った早産双生児例

○齋藤 彩、権守 延寿、稲毛 由佳、山田 早彌、生駒 直寛、熊沢 健介、林 至恩、
田邊 行敏、小林 正久、宮田 市郎、井田 博幸 (東京慈恵会医科大学小児科)

在胎 29 週 6 日で出生の 2 絨毛膜 2 羊膜性の双生児。出生前に第 1 子のみ心房細動、胎児水腫の指摘あり、出生後は両児に呼吸障害、筋緊張の低下を認めた。遺伝子検査で両児ともに CTG1200 リピートを認め、先天性筋強直性ジストロフィー (DM) の診断に至った。DM 双胎で出生時診断された報告例はまれで、全身管理を必要としたため文献的な考察も含め報告する。

第 4 グループ 17:05—17:40

座長 縣 一志 (荻窪病院小児科)

9) 繰り返す嘔吐発作と著明な高血圧から周期性 ACTH-ADH 放出症候群と診断した 1 例

○呉 英俊¹⁾、諸橋 環¹⁾、清水 翔一¹⁾、高橋 昌里²⁾、森岡 一朗¹⁾
(日本大学板橋病院小児科)¹⁾、(板橋中央総合病院)²⁾

4 歳男児。嘔吐と経口摂取不良を主訴に受診し、傾眠傾向と高血圧 (147/89mmHg) を認めた。精査にて周期性 ACTH-ADH 放出症候群と診断したが、著明な高血圧を伴う発作の抑制に難渋した。血圧測定がルーチンとなっている小児科外来は多くないと思われるが、早期診断やリスク回避の観点から、積極的な血圧測定を推奨する。

10) 早期に発見された腎性低尿酸血症の 1 例

○大石 賢司、佐藤 真教、武田 翔、丸山 和隆、西山 樹、秋谷 梓、丘 逸宏、吉田 登、
辻脇 篤志、櫻谷 浩志、鈴木 恭子、大友 義之 (順天堂大学練馬病院小児科)

10 か月女児。RSV 感染精査中に低尿酸血症 (0.7mg/dL) を認めた。尿中尿酸排泄率 34.2% と亢進しており腎性低尿酸血症が疑われた。父も低尿酸血症が指摘されており、今後遺伝子検査を行う予定である。腎性低尿酸血症はときに他疾患精査中に偶発的に発見されることもある。早期診断は運動後急性腎不全予防にもつながるため本症の概念を知ることは重要である。

11) 学校検尿を契機に見つかったループス腎炎で混合性結合組織病の合併が考えられた 1 例

○渡邊浩太郎¹⁾、宇田川智宏¹⁾、奥津 美香¹⁾、森 雅亮¹⁾、山崎 晋¹⁾、阿久津裕子¹⁾、
真保 麻実¹⁾、高瀬 千尋¹⁾、田中絵里子²⁾、三浦健一郎³⁾、服部 元史³⁾、森尾 友宏¹⁾
(東京医科歯科大学小児科)¹⁾、(JAとりで総合医療センター小児科/杏林大学小児科)²⁾、
(東京女子医科大学腎臓小児科)³⁾

ループス腎炎 (LN) は小児全身性エリテマトーデスや混合性結合組織病 (MCTD) に高率に合併する重要な臓器障害である。生来健康な 13 歳女子。学校検尿で蛋白尿と潜血を指摘された。精査で抗核抗体、抗 U1-RNP 抗体が陽性。腎組織像から LNV 型と診断された。厚労省の MCTD 診断基準は満たさなかったが、抗 U1-RNP 抗体陽性例は肺高血圧や間質性肺炎合併が多く、MCTD に準じた管理が重要である。

指定発言 宮前多佳子 (東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター)

【運営委員会だより】

10月12日の第658回講話会は台風19号のため、開催を中止した。

以下については運営委員でメール審議をし承認されたので報告致します。

1. 第659回講話会（2019年12月14日）プログラム編成の骨子について確認。中止となった演題は1月以降に発表頂くこととなった。
2. 第659・660・661回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長を確認。第658回講話会の教育講演は中止とすることとなった。
3. 2019年度の幹事選挙を行うことが承認された。選挙人・被選挙人は10月31日現在、東京在勤の会員であることを条件とした。
4. 次期プログラム委員（2020年1・2・3月）は昭和大学小児科岡田 祐樹先生にご担当頂くことになった。
5. 名誉会員に関して、推薦締め切りは11月末日とし、推薦をお受けすることとした。
6. こどもの健康週間パンフレットは10月のプログラムに同封し、日本小児科医会・東京小児科医会雑誌への同封が承認された。
7. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまで725名（全会員の約29%）の登録があったことを報告された。

以上

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- ・ 演題の締切は次のようになります。
- ・ 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先になることがありますのでご了承下さい。
その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は160字以内に、また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します。（原稿はワード入力にてe-mailにて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短かな一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- ・ 教育講演には日本小児科学会専門医新制度における専門医共通講習または小児科領域講習の単位が付与されています。
受付開始から教育講演開始時間まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と聴講証とを交換して下さい。
なお、引換券は当日限り有効です。
また教育講演開始後に入場、及び終了前に退出された方には聴講証はお渡しできません。
- ・ こどもの健康週間パンフレットは2017年版と2018年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。
- ・ 会場の東京医科大学病院の正面玄関は週末閉鎖されておりますので、防災センター入口をご利用下さい。

Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows のみ可、Mac は不可) のみで受け付けます。Mac の PC 持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の **10 日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へ e-mail または FAX でお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにあります。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

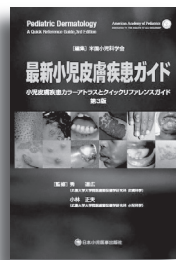
日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

オススメ書籍のご案内



最新感染症ガイド R-Book 2018-2021

編集：米国小児科学会
監修：岡部 信彦
判型：菊判
頁数：1208
価格：19,000 円 + 税

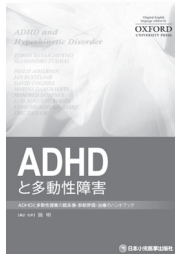


最新小児 皮膚疾患ガイド

編集：米国小児科学会
監修：秀 道広、小林 正夫
判型：菊判
頁数：754
価格：13,000 円 + 税

ADHDと多動性障害 ～ADHDと多動性障害の 臨床像・診断評価・治療 のハンドブック～

翻訳・監修：岡 明
判型：四六判
頁数：186
価格：5,000 円 + 税



T式ひらがな音読 支援の理論と実践 ～ディスレクシアから 読みの苦手な子まで～

著者：小枝 達也
関 あゆみ
判型：B5 判
頁数：96
価格：3,000 円 + 税



日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿 5-25-11 2F
TEL : 03-5388-5195/FAX : 03-5388-5193

ホームページ

